

そこまで追
知人が語る。

「二俣」にいた頃から、胃潰瘍を患ったりして、精神的に脆くなっている姿が見られた。また、今年に入り妻とも別れ、ますます落ち込んでいったようです」

自殺未遂報道の同日に

福岡県政関係者が続ける。「できれば政界に復帰できないかと、永田氏は考えているとの話が駆け巡っていました。最初は福岡11区、その次は4区から出たがっている。4区には宗像市が含まれ、『池友会』のヘリポートもあり、父親の影響力が強い土地です」

しかし、偽メール事件で大響盛を買った永田氏を政界で相手にする者はなく、「復讐話は立ち消えに。これも、シヨックだったのかもしれない」（同）

また奇縁にも、彼の最大の庇護者であろう蒲池氏の「池友会」も、自殺未遂報道の、まさに同日、紙面を賑わせていた。というのも、「21日、佐賀県武雄市の市

長が辞職しました。市長は、赤字経営だった市民病院の民間譲渡を決めたんですが、その先が『池友会』で、蒲池氏は、金持ち用病院への転換を図るのではないかと専らの評判。市民のための

総合病院として残してほしいと訴える住民グループと対立が続いていた。市長のリコール運動にまで発展し、ちようと19日が、市長が辞職届提出へ、との記事が載った日でした（地元記者）

東大、大蔵省、代議士とエリート街道をひた走ってきた永田氏に立ちほだかる数々の修羅。そこから這い上がる「覚悟」が、果たして今の彼に、まだ残されているのだろうか――。

新薬「死亡」者続出「米学会に

批判された「日本リウマチ学会」



中立性は大丈夫か。写真は小池隆夫理事長

き添える、と公表したのだ。金を貰って中立を保てるのか、というわけだ。

問題のリウマチ治療薬は「エンブレル」。2005年3月に発売されたが、昨年12月、

「リウマチ薬「エンブレル」、79人死亡 05年3月以降」（朝日新聞07年12月6日付夕刊）

と報じられ、大きな波紋を呼んだ薬である。アメリカのワイズ社が製造し、日本国内では武田薬品工業と共同で販売している。

「エンブレル」は生物製剤の1つです。生物製剤とは、動物由来のタンパク質に遺伝子操作を加えた新しい薬

れば、調査中に118人が死亡。うち副作用が直接の原因で敗血症などにより19人が亡くなったということも併せて報告され、日本リウマチ学会は、「死亡率は科学的に見て高くない、危険な薬ではない」との見解を発表した。

ビジネスクラスも

だが、この日本リウマチ学会に対して、一石を投じたのが米国リウマチ学会である。去る10月1日、米学会のホームページ上で、

「米国リウマチ学会ならば、米国の医学学会団体では、医薬品の治療法、手術式を正当に評価する観点から、医師が製薬会社から便宜供与を受けている場合、どのような名目の金銭授受であっても、その薬を評価する論文に、金銭授受の一覧を添付しなければならぬ」という内規があります」と指摘、こう続けた。

今年4月、日本リウマチ学会で、「エンブレル」を投与されたリウマチ患者約1万3900人の追跡調査結果が報告された。それによ

「その怪文書がバラまかれたのは、11月半ばのこと。民主党代表の小沢による

翌年、千葉7区の衆院補選

問題の怪文書はA4サイ

泉氏は、来たる総選挙で千

「怪文書については把握し

漢字読めない病の首相に、国会に出たくない症候群の野党代表。永田町は、さまざまな「病魔」に侵されているが、目下、元キャバクラ嬢として名を馳せる太田和美代議士(29)自体が「病原菌」と言わんばかりの怪文書が乱舞中。しかもそこには、彼女は不倫をしているとの内容まで――。

ここで改めて太田センセイの来歴を振り返っておくと、05年に千葉県議となり、

に民主党から出馬。が、すぐさま、議員になる前にキャバクラ嬢として働いていた過去が発覚し、一躍、キャバ嬢議員の名を恣にしたのであった。

「あくまで呑み友だち」

両者を知る関係者は、異口同音に「さもありません」と声を揃えるのだった。

「これは便宜供与ではなく、必要経費を支払ってもらっているだけ。市販後調査は製薬会社がやるもので僕はそれに協力している。手弁当でやれという意見があるかもしれないませんが、医師はこの調査のために夜中まで働いている。タダでやれというのは酷な話です」



み(HPより)、平(上)

「仲間の客にまで手を出すほどの枕営業(当時の同僚談)」

「泉議同期生の縁で2人が親しくなり、不倫しているのではないかとの噂は、役所や県政関係者の間で有名。酒をサシで呑みに行っている場面を多くの人が見ている。まずし、小泉のホームページには、太田との親密そうな2ショット写真が掲載されています」(千葉県政担当記者)

10「キャバ嬢議員」太田和美センセイ「不倫怪文書」乱舞中です

製薬会社が薬の安全性を確かめる調査費用を払ったことを記さないのはフェアではない、というのである。「日本リウマチ学会では新薬の安全性を評価する『PMS委員会』を設けていますが、以前は、評価の中立性を保つため委員の交通費などの経費は学会が予算を計上してきた。最近、それをワイス社に請求するようになった。ある委員は、海

外との学会へのビジネスクラス航空券も、ワイス社に払って貰っている」とは学会関係者だが、元学会幹部の専門医も、「米国の学会で治験の費用を製薬会社が負担したという注釈をつけられたのは、日本のリウマチ専門医の国際的な評価を下げた」と手厳しいが、小池隆夫日本リウマチ学会理事長はこう反論する。

普通だと公正さを保つためには、調査対象からお金は貰いませんけどねえ。

ズで、早くも第2弾まで登場。タイトルは「トリコモナス通信」、発行元は「太田和美研究プロジェクト」となっている。

「太田と小泉が、近しいのは、周知の事実。2人では、いい感じ」で相談している姿などを、皆、見かけています。男女関係にある証拠などないが、誰しも薄々そうなんだろうなと思っ「ますよ」(千葉県議)